

春 告 草

第 149 号 令和元年 7 月 19 日 進路指導部発行

「高校生」らしく夏休みを過ごす！

明日から夏休み。学校のタイムスケジュールに縛られることのない40日間はまさに使い放題の魅力的な時間で、6年生にとっては受験に向けて、より一層の学力向上を目指すための大切な時間となるだろう。いろいろと計画を立てていると思うが、あれもこれもと手を伸ばしすぎてはいけない。40日と書いたが、「40日しかない」のも事実である。4年生、5年生にとっても得意科目を伸ばし、苦手科目を克服する絶好のチャンスである。目標を立てて、しっかり取り組み、夏休みを有意義に過ごすことを心がけよう。

夏休みを有意義に過ごそう

6年生にとって、この夏休みは受験までにまとまった時間が取れる最後の機会である。4年生、5年生は部活動に若いエネルギーを燃やす時期だが、学校の授業がないこの期間は、自主的に学習に取り組む時でもある。得意科目を伸ばし、苦手科目を克服するチャンスだ。事前にしっかりと学習計画を立て、夏休みを有意義に過ごそう。

△夏休みの勉強時間の目標は500時間としていましたが、結果は485時間でした。達成できなかった理由は自分の努力不足であるのは明白ですが、もし目標をはじめから485時間にしていたなら、それすら達成できなかったでしょう。少し無理がある程度の目標を立てて達成できなくても、意義があると思います。(東京大学・文二 合格 平成29年度進路指針より)

■夏休みを4つの時期に分けて計画を立てる

夏休みを ①7月下旬 ②8月上旬 ③8月中旬 ④8月下旬 の4つの時期に分け、それぞれの時期に何に取り組むかを考えると計画を立てやすくなるだろう。「何時」「何を」するのかを考え、優先順位をつけて取り組もう。学習内容を確実に理解するためにも、無理のない計画を立てよう。また、週に1日「予備日」を設け、思うように予定が進まなかった分を取り戻す余裕を残しておくことも大切だ。

■起床・食事・就寝・学習開始時刻を固定する

夏休みも生活リズムを一定に保つことが大切。特に6年生は深夜まで勉強を追い込みがちであるが、翌日、翌々日の計画に支障が出ることは避けよう。無理は禁物だ。

■学校の課題に最優先で取り組む

まずは、夏休みの課題を確実に終わらせることを最優先しよう。夏休みの課題には、7月までの学習のポイントが多く含まれているので、課題にしっかり取り組むことで復習もできる。

■苦手分野の復習に取り組む

時間がある夏休みは、苦手分野を克服するチャンスである。苦手だと思うところがある人は、ぜひ、この夏休みに復習に取り組んでみよう。また、苦手科目は得意科目に比べて、学習時間が確保できていないケースもよく見受けられる。苦手科目を避けようとせず、克服に向けてしっかり取り組むことが大切だ。大学入試は総合点で合否が判定される。苦手科目で足元をすくわれて、進路実現が果たせないのは、非常にもったいなく、しかも残念なことである。

■学習記録をつける

何時間学習したか、計画どおりに取り組めたかを毎日振り返り、記録するようにしよう。毎日振り返ることで、すぐに軌道修正もできる。



6年生にとっては最後の夏休み
4年生、5年生にとっても、長い休みをどう過ごすかが大切です！



高校生らしく過ごそう

4年生は後期課程に入って最初の夏休みである。明日から勉強合宿が始まるが、それだけに止まらずに弱点補強など、自分オリジナルのプランを立てて実行することが大切である。

また、オープンキャンパスをはじめ、大学などが実施する進学イベントには積極的に出かけてみよう。オープンキャンパスで行われる模擬授業にも参加してこよう。興味が持てたのか、それともつまらなかったのか。大学の雰囲気は良かったのか、それとも自分には合わないと感じたのか。インターネットや情報誌だけでは得られない「体験」を通じて大学を理解してくる絶好のチャンスが、そこにあるのだ。出かけないという理由はない。未来の自分を見つけに行こう！申し込みがまだだったら、即行申し込みだ。

5年生は鷹校祭の中核としてしっかりと準備を進めていかなければいけないが、個人としてやるべきことを疎かにしてもいけない。夏休みは「高校生活の折り返し点」である。次の進路へ向けて自分の意志で「舵を切り」、力強く「前へ」進まなければいけない時期なのだ。

右表は5年進級前に行った調査の集計である。「受験勉強のスタート時期」について、3割の人が1学期までには開始する、夏休みまでには過半数の人が始めると答えていた。調査当時の自分の気持ちを振り返って、1学期中の取り組みをじっくりと検証してみよう。1学期を振り返って「あれっ、そうだったっけ？」と思えるような状況はなかっただろうか。学力向上には、常に積極性をもって取り組みたいものだ。全国集計と比べても、受験勉強のスタート時期についてはまだ甘さがあるように思える。

6年生は高校生らしくというよりも「受験生らしく」だろう。言うまでもなく、高校最後の夏休みだ。そして今日で「センター試験まであと183日」となった。2学期の始業式は142日前である。しっかりと計画を立て、それを実行していこう。進路指針の受験体験記も大いに参考になるだろう。是非読んでおこう。

夏休みを計画的に過ごすことは4年生、5年生と同様であるが、受験本番の半年前ということ意識し、一日一日を無駄のないよう、特に大切に過ごしていこう。注意すべき点は、

●**情報収集は自分で行う** オープンキャンパスへの参加など、志望校に足を運び、入試情報を収集する。親任せ、先生任せではいけない。自分が選んだ大学だ。情報は自分で集めよう！

●**自分のペースで勉強する** 自分の実力・弱点を把握し、周りに惑わされず、学力向上に取り組もう。

●**勉強の成果を確認する** 模擬試験や定期考査の問題に再度取り組み、知識のアウトプットを意識する。アウトプットすることで、知識、記憶が再整理され、理解の深まりも期待できる。

▲入試情報の収集と書いたが、来年のセンター試験の実施要項が発表された。共通テスト実施を控えたラストセンター試験で変更点もなく、例年どおりの内容である。ただし、例年どおりと言っても、皆さんにとっては初めてのセンター試験であるから、要項などは、大学入試センターのホームページなどで確認しておこう。6年生に対しては全員を対象に「センター試験出願説明会」を2学期当初に実施する。受験案内（出願書類）を配布し、記入要領なども説明するが、地歴・公民の受験科目数と理科の受験パターンは、夏休み中に決めておこう。

受験勉強のスタート時期

	6期生	難関国公立合格者	地元国公立合格者
高1 3学期以前	3.5%	8.1%	4.2%
高1 春休み	8.5%	13.8%	13.4%
高2 1学期	22.7%	20.1%	21.6%
高2 夏休み	27.0%	24.1%	25.3%
高2 2学期	10.6%	10.5%	10.9%
高2 冬休み	11.3%	7.6%	8.9%
高2 3学期	7.8%	8.4%	7.6%
高3になってから	7.1%	0.4%	7.9%

令和2年度センター試験時間割

試験日	試験教科・科目	試験時間	
一日目	地理歴史 公民	「世界史A」「世界史B」 「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」 「現代社会」「倫理」 「政治・経済」 『倫理、政治・経済』	2科目受験 9:30~11:40 1科目受験 10:40~11:40
	国語	「国語」	13:00~14:20
	外国語	「英語」他	【筆記】 15:10~16:30 【リスニング】 17:10~18:10
二日目	理科①	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	9:30~10:30
	数学①	「数学I」「数学I・数学A」	11:20~12:20
	数学②	「数学II」「数学II・数学B」	13:40~14:40
	理科②	「物理」「化学」 「生物」「地学」	2科目受験 15:30~17:40 1科目受験 16:40~17:40

センター試験理科の科目選択

- | | |
|---|------------------------|
| A | 理科①から2科目受験する |
| B | 理科②から1科目受験する |
| C | 理科①から2科目及び理科②から1科目受験する |
| D | 理科②から2科目受験する |



2020年度入試志望動向

共通テスト前、最後のセンター試験が行われる次年度の大学入試に大きな変更点はない。
6月に行われたベネッセ総合学力マーク模試における志望動向などをまとめた。
6年生は勿論だが、4年生、5年生も最新の入試動向を見ておこう。

1 近年の入試環境

■国立大では志願者数が徐々に減少

理科が先行して現行課程での入試となった2015年度入試から、理科の負担感のために国立大を避ける受験生の傾向がみられるようになった。さらに、推薦・AO入試の拡大にともなう一般入試の募集人員の減少も重なって、国立大の志願者数は緩やかな減少傾向が継続している。

■私立大における入学定員の厳格化

近年の私立大を取り巻く特徴的な入試環境の変化として、「入学定員の厳格化」が挙げられる。2016年度から、入学定員超過率に応じた補助金の減額および不交付措置の基準や、学部新設が不認可となる定員充足率の基準が段階的に厳格化されてきた。その影響により、私立大では2016年度入試から合格者の絞り込みが顕著にみられるようになり、特に難関私立大において難化が目立った。入学定員の厳格化は2018年度入試まで段階的に進み、2019年度入試以降ではさらなる厳格化は見送りとなったものの、私立大では厳しい入試が続いている。

■新入試を見据え 安全志向が顕著に

2021年度入試には大学入学共通テストの導入をはじめとした入試改革を控えていることと、これに対して過年度生に対する移行措置がとられないこともあり、安全志向の傾向がより強まっている。

2 6月模試の概況

6月模試(総合学力マーク模試)の受験者数

	受験者	延べ志願者数					教科別受験者数			
	総数	国公立大	私立大	私立大(一)	私立大(セ)	短大	5-8文系	5-7理系	私文3教科	私理3教科
2019年度	426,588	871,974	1,543,839	1,159,973	383,866	55,688	118,716	132,363	227,773	164,447
2018年度	447,798	925,323	1,584,930	1,193,662	391,268	63,702	122,971	139,120	239,050	172,617
指数	95	94	97	97	98	87	97	95	95	95

※指数は前年度の人数を100としたときの数値

6月模試における設置者別受験者数、教科別受験者数は上表のとおりであり、受験者数に対して国公立大の志望者数は大きく減少している。近年の国公立大志望者の減少傾向は継続している。

3 系統別志望概況

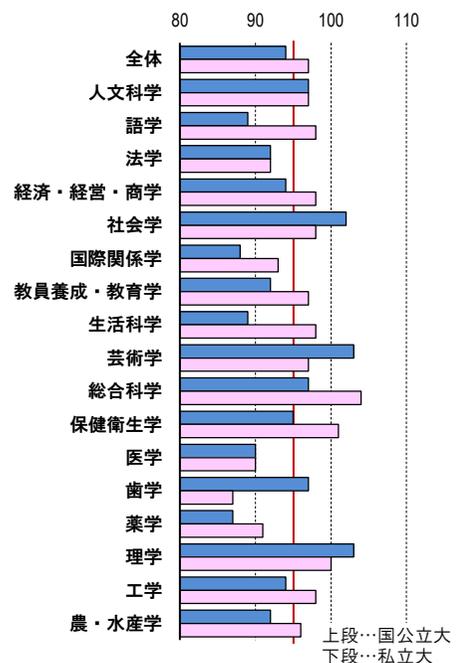
■国公立大では、社会学系統、理学系統が人気

6月模試の動向では、社会学系統(対前年指数102 以下同)や理学系統(103)などで人気が見られる。特に理学系統の中の情報科学系統の志望者数は対前年指数131と大幅に増加しており、近年の情報関係の人気を反映している。一方で、医学系統(90)、薬学系統(対前年指数87)では志望者数の減少が目立つ。医学系統では、臨時定員増の期限終了を受けて、入学定員減を予定している大学もあるため確認しておきたい。

■私立大では、総合科学系統、保健衛生学系統が人気

私立大では、総合科学系統(104)、保健衛生学系統(101)、理学系統(100)などで人気が見られる。特に総合科学系統の中の総合情報学系統(109)、理学系統の中の情報科学系統(109)は志望者数の増加が目立っている。一方で、医学系統、歯学系統、薬学系統では志望者数の減少が見られる。

学部系統別志望動向



4 国公立大の志望概況

■国公立大 難関大の志望者数はやや減少

受験者数の対前年指数は95となっているが、難関国立10大学(北海道大、東北大、東京大、東京工業大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大)の志望者数は対前年指数93と受験者全体の指数を下回った。また、ブロック大(筑波大、千葉大、横浜国立大、新潟大、金沢大、岡山大、広島大、熊本大、首都大東京、大阪市立大)の志望者数は対前年指数が94となっており、受験者全体の指数をわずかに下回った。一方でブロック大を除く公立大においては志望者数の対前年指数は96と全体を上回っている。

大学グループ別の志望者数変化

国公立	前期			後期			合計		
	2019年度	2018年度	対前年	2019年度	2018年度	対前年	2019年度	2018年度	対前年
難関10大	124,093	133,154	93	9,669	10,464	92	133,762	143,618	93
ブロック大	150,090	159,716	94	18,963	20,232	94	169,053	179,948	94
その他国立大	312,899	332,979	94	56,734	60,523	94	369,633	393,502	94
その他公立大	149,648	159,677	94	25,357	26,809	95	199,526	208,255	96

■難関国立大の動向

偏差値帯別に難関国立10大学の第1志望者数をみると、偏差値60以上70未満の層では志望者数はあまり減少していない。また、北海道大や名古屋大、京都大、大阪大、九州大などでは総志望者数よりも第1志望者数の対前年指数が大きくなっていて、難関国立10大学を第1志望とする受験生も、第2志望以下では幅広い志望校を選ぶ傾向が強い。新テストを控え、安全志向が高まっていると考えられる。

学力層別志望状況(第1志望者数集計)

偏差値	北海道大	東北大	東京大	東京工業大	一橋大	名古屋大	京都大	大阪大	神戸大	九州大	全体
70以上	114	96	90	70	71	94	85	101	85	86	92
65~70	119	108	105	101	78	96	93	104	108	95	100
60~65	102	88	101	87	84	101	91	101	100	105	97
55~60	101	89	94	79	83	94	97	101	97	100	96
50~55	85	87	98	87	98	94	95	94	97	96	93
50未満	87	74	104	92	90	81	95	89	80	97	87
第1志望者全体	97	89	98	88	83	94	92	99	94	99	95
総志望者数	94	89	98	97	81	89	89	95	94	97	93

5 私立大の志望概況

※数値は前年度の第1志望者数を100とした指数

■難関私立大志望者数は減少

大学グループ別の志望者数では、早慶上智やMARCHが減少している一方、中位以下のレベルでは増加している。背景には、入学定員の厳格化による難易度上昇や新入試に対する不安感があると考えられ、より幅広い難易度の大学を志望しているとみられる。

改組を予定している慶応大理工学部は電子工学科を電気情報工学科に改称し、情報工学科に進級できる学門が学門B(電気・情報分野)と学門C(情報・数学・データサイエンス分野)の2つ(現学門では学門5のみ)になるなど、情報に関する系統が拡充される。今回の模試動向では大学全体の志望者数は対前年指数81と大きく減少している一方で、環境情報学部は対前年指数93と比較的志望者が集まっている。理工学部での情報に関する系統の拡充が認知されれば、志望者数の増加につながる可能性がある。今後の動向には注目していきたい。

主な私立大学の方式別志望状況

大学名	一般			センター利用			合計		
	2019年度	2018年度	対前年	2019年度	2018年度	対前年	2019年度	2018年度	対前年
早稲田大	27,014	29,559	91	4,258	4,775	89	31,272	34,334	91
慶應義塾大	13,972	17,328	81			—	13,972	17,328	81
上智大	13,091	15,232	86			—	13,091	15,232	86
明治大	28,208	33,386	84	7,921	9,944	80	36,129	43,330	83
青山学院大	17,538	20,355	86	5,774	7,167	81	23,312	27,522	85
立教大	17,743	19,886	89	6,634	7,391	90	24,377	27,277	89
中央大	14,560	18,273	80	4,120	5,633	73	18,680	23,906	78
法政大	19,918	22,398	89	5,653	6,970	81	25,571	29,368	87